

中学校第3学年 国語科学習指導案

1. 単元名と単元目標（光村図書）

単元 5 いにしへの心と語らう～作品の背景を想像して読み、古典の心を今に生かす

【古文・音読】古今和歌集 仮名序

【古文】君待つと一万葉・古今・新古今

2. 指導目標

【関心・意欲・態度】「百人一首の世界」を楽しみ、古典文学に興味・関心を持たせる。

＜評価規準＞「百人一首」に興味・関心を持ち、学習コンテンツの様々なページを積極的に調べようとしている。

【読む・伝国】和歌に描かれた四季の自然に対する当時の人々の感じ方、考え方を捉え、古典に対する見方を広げさせる。

＜評価規準＞学習コンテンツの様々な内容を理解して、自分なりの感想をもてる。

【話す・聞く】「百人一首」の和歌に出会うことで気づいた、新たな美しさや自分自身の心のありようについて友だちと話し合わせる。

＜評価規準＞相手に伝わりやすいように工夫して発表したり、自分の考え方と比較して発表内容を聞いたりすることができる。

【書く・言語】興味を持った「百人一首」歌について学習コンテンツで調べ、推薦文や紹介新聞にまとめて交流させる。

＜評価＞歌人の生涯や歌の背景について調べ、その人物像や好きな歌の魅力についてまとめることができる。

3. コンテンツ活用により期待できる効果

- ・コンテンツやワークシートを用いて、同じテーマの和歌を読み比べたり、歌人のエピソードを知ったりすることで、古人が育んできた美意識や人間の価値観について理解を深める。また、現代の人々に通じる思いにふれることができる。
- ・「百人一首」の様々な情報を取捨選択し、テーマを決めて文章をまとめる活動につなげることができる。教科書で紹介されている和歌だけでなく、さらに多くの和歌に親しむきっかけになる。
- ・「百人一首」を窓口として、多くの古典作品とのつながりを知り、探究学習へとつなげる。

4. 指導計画（全4時間）

時	学習内容	●コンテンツ ★ワークシートの活用
1 ・ 本 時	・教科書の作品をはじめとして、現代まで読み継がれてきた古典の魅力や、日本人の美意識について考える。 ・教科書 P134 の「古今和歌集仮名序」を書いた 35 番・紀貫之をはじめ、P136 六歌仙、P137	※教科書に紹介されている歌人と和歌（一線は百人一首の歌） P31 季節のしおり・春 17 番・在原業平「世の中に」 P100 季節のしおり・夏 36 番・清原深養父「夏の夜は」 P132 季節のしおり・秋 23 番・大江千里「月見れば」、86 番・西行法師「心なき」「道の辺に」 P134 P142 「古今集」 35 番・紀貫之「人はいさ」 P136 六歌仙の歌人たち 17 番・在原業平「大方は」12 番・僧正遍昭「あさみどり」、9 番・小野小町「思ひつつ」22 番・文屋康秀「吹くからに」、8 番・喜撰法師「わが庵は」89 番・式子内親王「玉の緒よ」「忘れては」 P137 P143 「新古今」97 番・藤原定家「見わたせば」 P139 「万葉集」2 番・持統天皇「春過ぎて」3 番・柿本人麻呂「東の」4 番・山部赤人「田子の浦ゆ」6 番・大伴家持「春の園」P142 「古今集」18 番・藤原敏行「秋来ぬと」 ●HOME「1 和歌の味わい」●HOME「2 歌人紹介」 ★ワークシート 7「百人一首」の歌人を知ろう

	三十六歌仙の歌人たちについて、どのような歌が百人一首に選ばれているかを知り、歌の内容や歌人について調べる。	
2 ～ 3	・「百人一首の世界」コンテンツの使い方について確認する。 ・興味を持った歌や歌人に関連するページを調べる。 ・初めて知ったことや感動したことなどをワークシート7にメモする。 ・ワークシート8をまとめる。	★百人一首の世界コンテンツ利用のてびき 利用のてびきを参考にして、興味のあるカードを開いて閲覧させる。 ★ワークシート7「百人一首」の歌人を知ろう ●HOME「1 和歌の味わい」●HOME「2 歌人紹介」 ●HOME「3 三重の歌枕」●HOME「4 和歌出典」 ●HOME「5 和歌技法」●HOME「6 生活文化」 ●HOME「7 人間関係」●HOME「8 百首秘話」 ●HOME「9 競技かるた」●HOME「10 百首ゲーム」 ●HOME「11 百首クイズ」 ★ワークシート8「百人一首」の魅力を伝えよう 歌に込めた思いや表現技法、歌人の人柄やエピソードなどを参考に 340 字から 400 字で「百人一首」の推薦文をまとめさせる。 ※関連する教科書教材 <3年>P155 古典を心の中に
4	・推薦文の交流会を行う。 ・「百人一首」の魅力を伝えるリーフレットを作る。	・グループや全体で交流し、自分が選んだ歌、歌人以外について理解を深めさせる。また、百人一首の魅力をどのような視点で、工夫して伝えているかを考えさせる。 ・ワークシートの推薦文をもとにして「百人一首」の魅力を伝えるリーフレットを作らせることもできる。

3. 本時の指導過程（50分）

教科目標

- ・コンテンツを通して、さまざまな歌人の歌を豊かに読み、古典文学を身近に感じることができる。
- ・「百人一首」の和歌や歌人のページを調べることで、当時の人々の喜びや悲しみ、生き方や考え方を理解することができる。
- ・歌の世界を通して、自然の美しさや人の心を巧みに表現した言葉を知り、語彙を豊かにすることができる。
- ・「百人一首」の 10 枚のカードを調べることで、いろいろな角度から「百人一首」の魅力を知ることができる。

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1. 学習についての確認 教科書 P136～P137 の「歌仙図」や「色紙帖」を見て、人々が和歌に込めた思いを想像する。	今も昔も、感動したことを言葉に残そうとしてきたこと、それを伝えようとしてきたことを押さえる。
展 開	2. 「百人一首の世界」コンテンツを使って、教科書に紹介されている 16 人の歌人について調べる。 定家が「百人一首」に選んだ 16 人の歌人の歌を調べて、ワークシートにまとめよう。 ・コンテンツの 2 番・持統天皇のページを見て、コンテンツの基本的な活用の仕方について理解する。	★ワークシート7「百人一首」の歌人を知ろうの配布 百人一首の番号はほぼ年代順に並んでいること、2番、4番の歌は、「万葉集」ではなく「新古今集」に収められたものであることを確認しておく。 ●HOME「1 和歌の味わい」の活用 ①キャッチコピー②作者③出典④和歌 ⑤よみ（競技かるた部の高校生の朗詠であることを

	・残り 15 人の歌人について順番に調べ、ワークシート 7 に書きこむ。和歌のゆかりの写真、鑑賞、作品トピックスなどから和歌のイメージをふくらませる。 3. 調べ学習について全体で交流する。 一番好きな歌はどれだろう、印象に残った歌人は誰だろう。その理由を述べよう。 4. 次回も学習コンテンツを使ってさらに調べ学習を進めることを予告する。	伝える。) ⑥現代語訳⑦鑑賞⑧ことば⑨作品トピックス⑩写真 4 枚 ●HOME「2 歌人紹介」についても同様に説明する。 ①プロフィール②エピソード③代表的な和歌④ゆかりの地 ※教科書に掲載されている和歌については、③代表的な和歌で取り上げているので、確認できることを知らせておく。 自分が特に興味を持った歌や歌人について、意見を交流することで、どのような視点で百人一首の魅力を伝えるのか検討させる。 次回、どの歌、歌人を中心に調べるかを決めるように指示する。原稿用紙 340 字から 400 字以内で百人一首の魅力について推薦文にまとめることを確認しておく。
--	--	--